

【概要】2022年度活動報告

一般社団法人 全日本知的障がい者スポーツ協会

【2022年4月1日～2023年3月31日】

【月次報告】

月	内容
4月	<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍における全国障がい者スポーツ大会に関する全ブロックなどの調整・アジア・オセアニア大会の打ち合わせ（4月5日）※ZOOM会議（JPC）・Virtus アジア・オセアニア会議（4月13日：斎藤・谷口）※ZOOM会議・親子キャンプの事前視察①（4月23日）@渋川
5月	<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍における全国障がい者スポーツ大会に関する全ブロックなどの調整・主要支援企業様への協力依頼・ID バドミントンの国内大会視察（5月4日）@静岡・Virtus 理事会（5月6日：谷口）※ZOOM会議・Virtus アジア・オセアニア会議（5月11日：斎藤・谷口）※ZOOM会議・親子キャンプの事前視察②と打ち合わせ（5月12日）@KNT・親子キャンプの打ち合わせ（5月16日）※ZOOM会議（KNT）・親子キャンプの打ち合わせ（5月24日）※ZOOM会議（KNT）・ベンチャー支援税理法人（監事）との定例 MTG（5月26日）
6月	<ul style="list-style-type: none">・主要支援企業様への協力依頼・コロナ禍における全国障がい者スポーツ大会に関する全ブロックなどの調整・ID 陸上競技の国内大会視察（6月4日）@金沢・親子キャンプの打ち合わせ（6月9日）@KNT・Virtus アジア・オセアニア会議（6月9日：斎藤・谷口）※ZOOM会議・アンバサダー（高橋様）と打ち合わせ（6月21日）※ZOOM会議・第1回理事会及び社員総会（6月25日）※書面会議・環境省へ表敬訪問（6月27日）@環境省
7月	<ul style="list-style-type: none">・営業活動 ・事務処理・アート引越センター様へ表敬訪問（7月7日）@大阪・アジア・オセアニア大会の打ち合わせ（7月13・14日）@JPC・Virtus アジア・オセアニア会議（7月13日：斎藤・谷口）※ZOOM会議・親子キャンプの打ち合わせ（7月22日）※ZOOM会議（KNT）・アジア・オセアニア大会の打ち合わせ（7月27日）@JPC・アジア・オセアニア大会 NF 説明会（7月28日）※ZOOM会議・全柔連と OA 大会に関する打ち合わせ（7月29日）@講道館
8月	<ul style="list-style-type: none">・営業活動 ・事務処理・Virtus アジア・オセアニア会議（8月18日：斎藤・谷口）※ZOOM会議・アジア・オセアニア大会の事前視察（8月28日～9月3日）@ブリスベン・大岡敏孝環境副大臣へ表敬訪問（8月25日）@議員会館

9月	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア・オセアニア大会の打ち合わせ（9月9日）@JPC ・アジア・オセアニア大会の打ち合わせ（9月15日）@JPC/KNT ・第2回理事会開催（9月24日）※書面会議 ・東久留米市長へ表敬訪問（9月29日）@東久留米 ・アジア・オセアニア大会の打ち合わせ（9月29日）@JPC ・JBA 三屋会長へ表敬訪問（9月30日）@後樂園
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・営業活動 ・事務処理 ・アジア・オセアニア大会の打ち合わせ（10月6日）@JPC ・Virtus アジア・オセアニア会議（10月13日：斎藤・谷口） ※ZOOM 会議 ・木原誠二官房副長官へ表敬訪問（10月13日）@議員会館 ・アジア・オセアニア大会のオリエンテーション（10月13日）※ZOOM 会議（NF） ・アジア・オセアニア大会の打ち合わせ（10月27日）※ZOOM 会議（JPC）
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア・オセアニア大会（11月3日～12日）@ブリスベン ・ID 水泳の国内大会視察（11月27日）@新座市
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋ダイヤモンドドルフィンズ様との打ち合わせ（12月8日）@名古屋 ・ベンチャー支援税理法人（監事）との定例 MTG（12月13日） ・ID 卓球の国内大会視察（12月17日）@神奈川 ・第3回理事会開催（12月24日）※書面会議 ・各支援企業様への年末報告
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・アンバサダー委嘱式（1月10日）@各所 ・全国障がい者スポーツ大会関東ブロック全体会議（1月25日）※ZOOM 会議 ・国庫補助金清算処理 ・ビシー大会に関する会議（1月23日）@JPC ・JAL 様と今後についての会議（1月27日）@筑波大学
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・営業活動 ・国庫補助金清算処理 ・Virtus 理事会（2月4日：谷口） ※ZOOM 会議 ・ヴィシー大会に関する会議（2月6日） ※ZOOM 会議（JPC） ・AHI（アジア保健研修所）との会議（2月9日）@名古屋 ・パラマガジン社および三晃社様との会議（2月10日）@名古屋 ・ヴィシー大会のオリエンテーション（2月13日）※ZOOM 会議（NF） ・全国障害者スポーツ大会 大会委員会（2月15日）@JPC ・Virtus アジア・オセアニア会議（2月15日）※ZOOM 会議 ・Virtus アジア・オセアニア会議（2月24日）※ZOOM 会議 ・ヴィシー大会の事前視察（2月26日～3月3日）@フランス（ヴィシー）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回理事会開催（3月18日）※書面会議 ・新規スポンサーへの働きかけ ・年度末事務処理 ・韓国（SOK）との打ち合わせ（3月23日～25日）@韓国

【令和4年（2022年度）度活動概要】

令和4年度（2022年度）は、少しずつではあるが、コロナと共存する形をとり（但し7月からは第7波）、特に、国内的な動きで言えば、公益財団法人日本パラスポーツ協会と共催している「全国障がい者スポーツ大会_ブロック予選会」に関しては、全ての予選会場で実施された。これまでの知見の下、コロナ対策もスムーズに行われ、かつての活気が少しずつ戻ってきた印象を受けている。また、この活動に伴うJKA（競輪）の補助金申請もこれまでになく応募数であった。

さて、2022年度は何とんでも、アジア・オセアニア地区で開催される初めての大会「ブリスベン2022 オセアニア・アジアゲームズ」の開催が挙げられる。同大会の開催にあたっては、オーストラリアの組織委員会等と毎月1度程度のミーティングを重ね、特にこれまで参加（派遣）したことのない国々（ソロモン諸島等）への働きかけに関して、多くの議論を行い、その結果、本大会では非常に多くの国が参加することが出来た。更に申し上げれば、コロナの影響で開催が出来なかった、アメリカ地域から「USA」チームが参加やヨーロッパからは「英国」「フランス」チーム等も参加し、イレギュラーではあるが、合計25カ国がブリスベンに集った。

その上で、日本としても大きなチャレンジがいくつもあったことを紹介したい。

まず一つ目は、ダウン症アスリートの派遣が叶ったことである。2019年のグローバル大会では1名も派遣することは出来なかったが、その後、国内において十分な準備を行い、柔道の選手が1名派遣することが出来たことは大変喜ばしい出来事である。そして、同選手には日本選手団の旗手を務めて頂いた。一方、陸上競技に関しては、ダウン症アスリートのための国内大会を2度開催しており、2023年6月のグローバル大会では派遣が出来るのではないかと期待している。

次に、派遣競技団体に関して、これまで、「陸上競技」「水泳」「卓球」「バスケットボール」「フットサル（※今回はフットサルの競技は開催されていない）」の5競技だけだったが、その他に、「自転車競技」「柔道」そしてデモンストレーション競技として「バドミントン」の合計7競技の派遣が実現した。ただ、同派遣にあたっては、国内における調整も非常に大変であり、多くの方々の力が結集し、この派遣に繋がった。

最後に、直接競技とは関係はないが、アジアの中の日本としての社会的な責務として、「布マスク3000枚」「中古柔道着25着」を無償提供した。布マスクはいわゆる“安倍マスク”といわれるもので、2022年1月頃に、厚生労働省より、本協会に提供があったものを使用した。大会期間中に組織委員会から参加した各国に配布され非常に喜ばれた。また同様に柔道着もオーストラリア柔道連盟へ寄付し、大洪水で柔道場や自宅を失った指導者の元へ手渡され、感謝状も頂いた。たあ、これらの作業を行う上で、ブリスベン総領事館の献身的な助言とサポートがなかったら実現しなかったことを考えると、改めて本当に多くの方々に支えられて派遣が出来たのだと、この場をお借りして感謝をしたい。

そして、年明けには、早速グローバル大会の事前視察が始まり、息つく暇もない状態でスタートした。さらに、このコロナ禍で停滞していた「日韓交流プログラム」の再開に向け、韓国側とも協議を始めることができた。

そして、2年目となるアンバサダー制度も順調に推移しており、2023年度には、2名を

委嘱することが出来、2023年度も十分な活動が出来ると期待している。ただ、悔やまれるのは、今年度、初めて計画された「親子キャンプ」延期となり、自主財源事業の発展を考える上で、改めて仕切り直しとなった。